

引用文献

- 麻原きよみ. (2010). 社会を構成する看護師としての責務. *インターナショナルナーシングレビュー日本語版*. 33(5). 14.
- Asahara et. Al., (2012). Ethical Issues in Practice: A Survey of Public Health Nurses in Japan. *Public Health Nursing*, 29(3), 266-275
- Benner, P., Wrubel, J.. (2016). ベナー/ルーベル現象学的人間論と看護(第11刷). (難波卓志, 訳.). 東京: 医学書院.
- Bishop, A., Schudder, J.. (2005) . *Nursing Ethics Holistic Caring Practice*. 田中美恵子監訳. (2005). 全人的ケアのための看護倫理. 東京: 丸善株式会社.
- Doka, K. J. (Ed). (2002). *Disenfranchised Grief: New Directions, Challenges, and Strategies for Practice*, USA Malloy Lithographing.
- Douglas, E., (2013a). Child Welfare Workers Who Experience the Death of a Child Client. *Administration in Social Work*, 37:59-72
- Douglas, E., (2013b). Symptoms of Posttraumatic Stress among Child Welfare Workers Who Experience a Maltreatment Fatality on their Caseload. *Journal of Evidence-Based Social Work*, 10.373-387
- Gelven, M. (2015) . ハイデッガー『存在と時間』註解(第9版). (長谷川西涯, 訳.). 東京: ちくま学芸文庫.
- 畠山由佳子. (2015). 子ども虐待在宅ケースの家族支援—「家族維持」を目的とした援助の実態分析. 東京: 明石書店
- Herman, J.L.. (1996). 心的外傷と回復(中井久夫, 訳.). 東京: みすず書房.
- Holloway, L. & Wheeler, S., (1996). *Qualitative research for nurses*. Hoboken, NJ: Blackwell Science / 野口美和子 (監訳), ナースのための質的研究入門 pp.3-4. 医学書院
- Holzemer, L. W., (1989). 研究の方法論: 標本の抽出と測定用具. *看護研究* 22(1); 61-69
- Horowitz, Mark., (1998). Social worker trauma: Building resilience in child protection social workers. *Smith College Studies in Social Work*, 68(3)
- 星旦二, 麻原きよみ. (2014). これからの保健医療福祉行政論 地域づくりを推進する保健師活動(第2版). 東京: 日本看護協会出版会.

- 上別府圭子. (2010). 児童虐待にかかわる保健師を養成し支援する. 保健の科学 52(11);721
- 金川克子, 大井田隆, 角野文彦, 實成文彦, 伊達ちぐさ, 村嶋幸代, ... 有本梓. (2005) 公衆衛生看護のあり方に関する検討委員会活動報告「保健師のコアカリキュラムについて」中間報告. 日本公衆衛生雑誌, 52(8), 756-764.
- 金川克子編. (2015). 最新 保健学講座 1 公衆衛生看護学概論(第4版). 東京: メヂカルフレンド社.
- 金川克子, 大井田隆, 角野文彦, 實成文彦, 伊達ちぐさ, 村嶋幸代, ... 有本梓. (2005) 公衆衛生看護のあり方に関する検討委員会活動報告「保健師のコアカリキュラムについて」中間報告. 日本公衆衛生雑誌, 52(8), 756-764.
- Kaplan, L. J.. (2000). *Toward a Model of Caregiver Grief: Nurses' Experiences of Treating Dying Children*. *Omega - Journal of Death and Dying*. 41(3). 187-206.
- 警察庁生活安全局少年課. (2015). 児童虐待および福祉犯の検挙状況(平成27年1~12月)
- 金 吉晴. (2010). 心的トラウマの理解とケア 第2版. 東京: じほう
- Kleinman, A.. (1996). 病の語り—慢性の病をめぐる臨床人類学. 東京: 誠信書房
- 厚生労働省. (2013). 子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について (第9次報告)
- 厚生労働省. (2015). 子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について (第11次報告)
- 厚生労働省. (2018). 平成29年度 児童相談所での児童虐待相談対応件数 (速報値)
<https://www.mhlw.go.jp/content/11901000/000348313.pdf>
- 黒木宣夫. (2003). PTSD 診断と賠償 臨床医による PTSD 診断と賠償及び補償の留意点. 東京: 海文堂出版
- 丸山恭子. (2003). 保健師さん 児童虐待を見逃さないで! 支援者が受けるトラウマ.
 保健婦雑誌 59(4); 366-370
- 松葉祥一、西村ユミ 編. (2014). 現象学的看護研究 理論と分析の実際. 東京: 医学書院
- Merleau-Ponty, M., (2015). 知覚の現象学 2 (第23刷). (竹内芳郎, 木田元, 宮本忠雄, 訳.). 東京: みすず書房.
- 村上靖彦. (2014). 摘便とお花見: 看護の語りの現象学(第2刷). 東京: 医学書院.
- 村上靖彦. (2017). 母親の孤独から回復する: 虐待のグループワーク実践に学ぶ. 東京: 講談社.

- 村嶋幸代, 田口敦子, . (2004). 現代の保健師 より健康な地域社会創造の担い手として、そして、自分の仕事の意味と効果を明示できる存在として. 公衆衛生, 68(4). 256-259.
- 西村ユミ. (2016). 「そうではなくて」という思考のスタイル 現象学と看護研究の関係を捉え直す. 看護研究, 49(4), 324-335.
- 西村ユミ. (2017). ケアの実践を記述すること／自らの視点に立ち帰ること. 西村ユミ, 榊原哲也編. ケアの実践とは何か：現象学からの質的研究アプローチ (pp. 22-44). 京都：ナカニシヤ出版.
- 永谷 智恵, 岡田 洋子, . (2005). 子ども虐待の家族支援に携わる保健師の経験 インタビューを通して. 日本看護科学学会学術集会講演集 25回:147
- 永谷 智恵. (2009). 子ども虐待の支援に携わる保健師が抱える困難さ. 日本小児看護学会誌 18(2) : 16-21
- 根岸 薫, 麻原 きよみ, 柳井 晴夫, . (2010). 「行政保健師の職業的アイデンティティ尺度」の開発と関連要因の検討. 日本公衆衛生雑誌 57(1) ; 27-38
- 岡本玲子. (2009). 特集 私の「保健師必要論」 なぜ保健師は必要か？それは公衆の生を護る保健師の機能がオリジナルだから. 地域保健, 40(9). 36-40.
- 奥田清子. (2006). インシデントあるいはアクシデント後の看護師の感情体験. 日本赤十字看護大学紀要 20, 43-53
- Pellegrino, E., (1985). The caring ethic. In A. H. Bishop; and J. R. Scudder, Jr, (Eds), Caring, curing, coping: Nurse, physician, patient relationships (pp. 8-30). University, AL: University of Alabama Press
- 榊原哲也. (2016). 看護と哲学 看護と現象学の相互関係についての一考察. 看護研究 49(4) : 258-266
- 榊原哲也. (2018). 医療ケアを問いなおす：患者をトータルにみることの現象学. 東京：筑摩書房.
- 鷹田佳典. (2012). 悲しむ主体としての看護師 遺族ケアの手前で考えるべきこと. 三井さよ, 鈴木智之 (編). 現代社会研究叢書 6 ケアのリアリティ：境界を問いなおす (pp. 163-200). 東京：財団法人法政大学出版局.
- 鷺田清一. (2015) . 現象学の視線(第10版). 東京：講談社.

山下由紀子, 伊藤 美花, 嶋崎 淳子, 笹川 真紀子, 小西 聖子, . (2004). 市町村保健師の
二次性外傷性ストレスの観点からみたメンタルヘルス. *トラウマティックストレ
ス* 2(2); 75-86

渡邊二郎編, 岡本宏正, 寺邑昭信, 三富明, 細川亮一. (2017) . ハイデガー『存在と時間』
入門 (第7版). 東京: 講談社.

参考文献

- 麻原きよみ. (2007). 【特集】いま、改めて「コミュニティ」を考える コミュニティを対象とした保健活動で求められるもの. 保健師ジャーナル. 63(5). 402-406.
- 麻原きよみ. (2009). 健康格差を是正する働きに期待. 地域保健. 40(9), 24-29.
- 麻原きよみ. (2010). プロフェッショナルとしての保健師活動とは:台東区の活動を考える. 保健師ジャーナル. 66(3). 236-237.
- 麻原きよみ. (2012). 専門知識・技術で割り切れないもの:日常の地域看護実践における倫理. 日本地域看護学会誌. 15(1). 150-156.
- 麻原きよみ. (2016). 公衆衛生看護の多様性と本質:未来に向けて. 日本公衆衛生看護学会誌. 5(1). 75-79.
- 麻原きよみ編. (2017). 公衆衛生看護学テキスト第1巻:公衆衛生看護学原論(第3刷). 東京:医歯薬出版株式会社.
- 麻原きよみ, 井伊久美子, 荒木田美香子, 松本珠美, 堀井とよみ, 村嶋幸代, 平野かよ子. (2019). 新版保健師業務要覧 2019年版(第3版). 東京:日本看護協会出版会.
- 荒賀直子, 後閑容子. (2019). 公衆衛生看護学.jp データ更新版:Public Health Nursing in Japan. (第4版). 東京:インターメディカル.
- 鮎澤純子. (2002). 事故後の看護師に必要なもの:実務的サポートと精神的サポート. インターナショナルナーシングレビュー日本語版. 25(4). 24-30.
- Davis, A. J., Tschudin, V., Raeve, L. D.. (2008). 看護倫理を教える・学ぶ:倫理教育の視点と方法(小西恵美子, 監訳.). 東京:日本看護協会出版会.
- Fry, S. T., Johnstone, M. J.. (2010). 看護実践の倫理:倫理的意思決定のためのガイド(第3版). (片田範子, 山本あい子, 訳.). 東京:日本看護協会出版会.
- 福田紀子. (2009). 看護師長が体験している医療事故後対応の困難さ. 日本管理学会誌. 12(2). 12-21.
- 平本美津恵, 池田智子, 上野瑞子, 徳永恵美子, 林千加子, 横手芳恵. (2001). 看護事故と看護者の経験の構造:回想による体験過程の分析. 日本看護学会論文集:看護管理(32). 303.
- 糸賀大地, 佐藤紀子. (2018). 看護師の医療事故へのおもいに関する研究の現状と課題:医療安全の歴史的変遷を踏まえて. 東京女子医科大学看護学会誌. 13(1). 28-33.

- 勝部麗子. (2016). 記念講演 変革する力：声なき声が社会を変える：サイレントプアと向き合うコミュニティーソーシャルワーカーの実践から (社大福祉フォーラム 2015 報告). 社会事業研究. 55. 4-15.
- 木田元. (2016). 現象学(第 42 版). 東京：岩波書店.
- Kirkpatrick, C. (2002). 医療事故を起こした看護師の精神的サポート(中岡彩, 訳.). インターナショナルナーシングレビュー日本語版. 25 (4). 37-40.
- 小林順子, 山本美紀, 休波茂子. (2013). インシデントやアクシデントを経験した看護職者の安全学習に関連する要因. 日本看護研究学会雑誌. 36 (5). 57-66.
- 小西恵美子. (2019). 看護学テキスト NICE 看護倫理：よい看護・よい看護師への道しるべ (第 2 版). 東京：南江堂.
- Merleau-Ponty, M., (2017). 知覚の現象学 1 (第 35 刷). (竹内芳郎, 小木貞孝, 訳.). 東京：みすず書房.
- 宮崎美砂子, 北山三津子, 春山早苗, 田村須賀子編. (2018). 最新 公衆衛生看護学 2019 年版総論(第 3 版). 東京：日本看護協会出版会.
- 村上靖彦. (2017). インタビュー分析の言語学的基盤, 個別者の学としての現象学. 看護研究, 49(4), 316-323.
- 村上靖彦. (2017). 経験の流れを内側から捉える知 現象学と他の方法はいかにして補い合うのか. 看護研究, 50(4), 325-329.
- 中板育美. (2010). 社会の縮図としての保健・医療現場③：小児虐待の背景にみる「格差」. インターナショナルナーシングレビュー日本語版. 33(5). 31-33.
- 西村ユミ. (2012). 語りかける身体：看護ケアの現象学(第 5 刷). 東京：ゆみる出版.
- 西村ユミ. (2015). 看護者として“経験”に向き合う意味を生成する看護経験の語り. 聖路加看護学会誌, 18(2), 32-34.
- 岡田麻里, 村嶋幸代, 麻原きよみ,. (1997). 地域ケアシステムを構築した際に保健婦がもちいた能力. 日本公衆衛生学会誌. 44(4). 309-321.
- 大阪府保健所の保健師活動を語り継ぐ会. (2009). 保健師ものがたり. 大阪：せせらぎ出版.
- 佐伯和子. (2012). 保健師の「使命感」を考える：今日における保健師魂. 地域保健. 43(6), 44-47.
- 榊原哲也. (2011). 現象学的看護研究とその方法 新たな研究の可能性に向けて. 看護研究, 44(1), 5-16.

- 榎原哲也. (2019). 現象学はあなたにもきっとおもしろい！ 教務主任養成講習会を通して. 看護教育, 57(4), 250-257.
- Spivak, C. G. (2016). サバルタンは語る事ができるか(第13版). (上村忠雄, 訳.). 東京：みすず書房.
- 高尾茂子. (2016). 保健師：地域の健康をつむぐそのはたらきと能力形成(第2版). 岡山：ふくろう出版.
- 田川由美子. (2010). 特集 私の「保健師必要論」Part2 保健師は公平公正に働く意味と意識の体現者. 地域保健. 41(4). 48-51.
- 山本君子, 天野雅美, 入江慎治, . (2009). 看護師が事故を起こしたとき上司に望むサポート. 看護教育研究学会誌. (1)1. 25-44.
- 山本信. (2013). 哲学の基礎(第17版). 東京：北樹出版.
- 山本弓子, 内野奏子, 滝野浩寿, 荒巻真由美, . (2018). アクシデントレベルにある転倒転落事故を経験した看護師の心理. 日本看護学会論文集：看護管理. (48). 51-54.
- “若いと思う”保健婦の集い実行委員会. (1993). 保健婦ってなんだろう Part5：事実のなかから声なき声をくみあげる. 大阪：せせらぎ出版.
- 渡邊好恵. (2014). 特集 私の「保健師必要論」Part2 オーダーメイドを積み重ね事業化へ. 地域保健. 41(4). 22-27.